



# 未来に向けての「改革」を共に

法被は地域の安心感を示す象徴



最上町消防団 二戸孝芳 団長

平成29年に副団長、令和5年に消防団長就任。現在は消防団活動の在り方や、分団再編成など時代に合わせた組織運営を検討。新しい時代の消防団の改革に期待が寄せられている。



「消防団は地域防災の要である」と私は信じています。一人ひとりが責任をもって活動しており、仕事と消防団活動の二刀流を実現している方々がほとんどです。私自身、集落との連携について理想するのは、何といたっても消防団の「法被」です。地域に災害があった際、団員の法被を見ると、安心感を覚えてくれる方々がたくさんいらっしゃると思います。これはまさしく、今まで地域と密接に関わって活動してきた消防団の長い歴史が評価されているからに他なりません。町民の皆様からは、「火災や災害があった時は、消防団がいるおかげで安心できる」といったお言葉を頂くことがあります。こうした声を耳にすると、今後も集落と連携を図りながら、火災予防や防災活動に頑張つて取り組んでいかなければならないと、改めて身が引き締まる思いです。

## 町民の安心安全が最優先、分団の再編は必要不可欠

若い人たちの活躍こそが未来の防災につながる

記憶に新しい能登半島地震をはじめ、災害はいつどこで起きてもおかしくありません。私たちの住んでいる町も、これまで幾多もの災害に見舞われてきました。そうした中で特に消防団活動に対して思うことは、地域のコミュニティと人材育成についてです。愛郷心を持った若い人たちが、地域の方々とコミュニケーションをとることにより、自分たちの地域を守らなければならぬという責任感が芽生えてくる。その中で災害（）

## 地域を守る 消防団の役割とこれから

消防団への勧誘は、サラリーマンや町外に勤務地を持つ方々が増えてきているため、非常に難しくなってきました。また、仕事をしながら活動を行うことを理解していただく必要があります。現在の団員数から増やすことは現実的に難しいと思っております。しかし、消防団は地域やそこに住む家族を守るためになくてはならない存在なのです。地元へ戻ってきた方、町外から来た方々を集落で見守りながら大切にすることが必要であり、それこそが将来的に団員となつてくれる方々の入団につながっていくのではないかと考えています。私たち消防団も、何十年もの間引き継がれてきた伝統ある春季消防大演習や、操法大会、各種訓練などを、時代に即した形に見直し、団員の負担が大きくならないように変えていくことも組織として重要な課題だと思っております。

が発生した際に、率先して頑張つてくれるような人が出てきてほしいと願っています。大切な地域を守っていくためにも、限られた時間の中で訓練を行ない、火災現場、災害現場で活躍できるような若い人たちが今後、私たち消防団の仲間として共に活動することが、未来の防災につながるのではないのでしょうか。

地域の住民全員を大切にしてみたいですね

## 再編は、そこに住む人たちがこれからの作る。

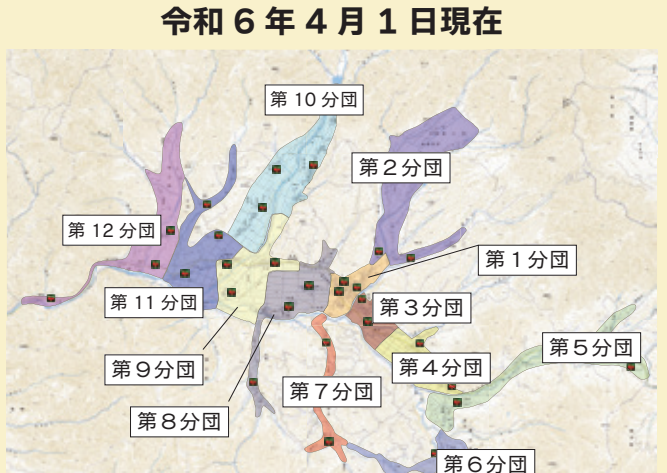


再編には集落の理解が何よりも大切

分団の再編は少子高齢化、人口減少が進む中でますます重要になってきます。今後早急にかつ確実に進めていかなければならない課題です。再編は組織側のプランをもとに一方的に進めるのではなく、集落の方々や消防団員の意見を聞きながら、慎重にそして柔軟性を持って進めていかなければなりません。また、消防団組織だけが再編を進めても意味がありません。地域の皆さんが連携し、理解していただくことで初めて解決する課題です。今後は、消防団の再編を皮切りに、集落相互の連携やコミュニケーションがますます必要になってくると思っております。町民の皆様から「未来に向けての改革の当事者」であることをご理解いただき、安心安全なまちを作っていきたいと思います。

### 消防団組織再編ビジョン

令和6年4月現在 **12分団** から **6分団** へ (本部分団を除く) 令和15年を目標に



消防団の再編にあつては、消防防災力の機能を維持しながら、現在の12分団(本部分団を除く)から概ね10年後をめどに、6分団程度へと再編に向けて取り組んでいきます。さらに再編と並行し、小型ポンプの配備体制や、防火水槽などの消防設備についても地域の意見を聞きながら見直しを図ります。また、今後の人口減少に伴い、消防(ア)

団員の減少は免れないため、団員の負担を軽減しつつも訓練を充実させ、少数精鋭で消防団活動を行っていく必要があります。消防団は地域と密接に関係していることから、再編にあつては、地元消防団と地域の意見、意向を尊重するとともに地域の理解や協力が必要不可欠なことから、地域をあげた再編へのご理解、ご協力を願います。